



# 北千葉道路

## —全線開通に向けて—



## 北千葉道路沿線市の紹介

資料：全国(国土交通省都市町村別面積調 R6.1.1)  
人口(千年度毎月推定人口調査月報 R.6.1.1)

**市川市** 面積：57.44km<sup>2</sup> 人口：499,589人

江戸川を挟んで東京都と隣接し、南は東京湾に面しています。都心から20km圏内にあり、鉄道や道路など、都市部と県内各地域を結ぶ広域交通網が多くあり、利便性の高い住宅地です。

一方、都市部にありながら、緑地と水辺が同居する豊かな自然環境にも恵まれ、北部には「動物博物館」を多くの梨畑があり、海に面した南部には自然を残した干潟が見られます。

寺社や古くからの街並など、歴史的・文化的な資源も多く有しており、日本を代表する風景画家 東山彫英など、これまでに数多くの文化人が生まれ、文化の薫り高い都市としても発展しています。

**船橋市** 面積：85.62km<sup>2</sup> 人口：648,355人

中核市最大の約64万人が暮らし、都市と自然が調和する「船橋」は、自然溢れるレジャースポットが盛りだくさん。

デンマークの風景が広がる「ふなばしアンデルセン公園」は、広大な敷地に四季折々の花々やアスレチックなどで子どもから年配の方まで大人気。

また、都心から一番近い潮干狩り場「ふなばし三浦海岸公園」では、春から初夏にかけて、爽やかな潮風をしながら潮干狩りが楽しめます。

魅力あふれる船橋がみなさんをお待ちしています。

**松戸市** 面積：61.38km<sup>2</sup> 人口：499,335人

松戸市は、千葉県北部に位置し、人口49万人を抱え、首都圏有数の生活圏として発展してきました。

一方、市内には歴史、文化ならびに自然に触れるところが数多くあります。国の重要文化財に指定されている「戸定」と名前に指定されている庭園をはじめ、あはれ寺として親しまれている「本土寺」、江戸川の対岸・葛飾区と結ぶ「矢切の渡し」などの観光名所を持ったまちです。

**成田市** 面積：213.84km<sup>2</sup> 人口：133,986人

成田市は、日本の空の玄関口である成田国際空港と年間1,000万人以上の参詣客を誇る成田新勝寺がある。新勝寺へつがる表参道と宗吾堂など、門前町としての歴史を感じられる町並みに加え、印旛沼や利根川などの豊かな自然を有しており、様々な表情を持った観光都市です。

**印西市** 面積：123.79km<sup>2</sup> 人口：108,660人

北千葉道路沿線を中心に千葉ニュータウン地域では、全国屈指の企業や多くの大型商業施設、病院や大学など、各種の都市機能が集積されています。

一方で水辺、里山の自然環境や良好な農地の恵まれ、有形無形の文化財や伝統的な風情や文化も数多く残っています。

都市環境と自然環境が調和した魅力あふれる印西です。

**白井市** 面積：35.48km<sup>2</sup> 人口：61,601人

白井市は、都心と成田空港からそれぞれ約30kmに位置し、都市の生活利便性と自然環境が両立しており、災害に対する強さ、充実した子育て環境、交通アクセス性の良さなどの魅力にあふれ、快適で安心できる暮らしが実現でき、農業・工業・商業などの産業と良好な住宅地のバランスが取れた、未来に向き合える発展の可能性を秘めたまちです。

**鎌ヶ谷市** 面積：21.08km<sup>2</sup> 人口：109,768人

鎌ヶ谷市は、都心から25km圏内にあり、鉄道が4線、交差していることから、住宅都市として発展しています。また、北海道日本ハムファイターズのファーム(2歳)本拠地があり、イスタンブール杯の公式戦が約70試合開催されています。さらに、駅名にもなっている鎌ヶ谷大仏は、高さ1.8mの小さな大仏で多くの人に愛されています。

都市化が進む中、農業も盛んで、緑豊かな農地が多数残っており、梨の産地としてもその名を知られています。

**一般国道464号北千葉道路建設促進期同盟会**

外環道と成田国際空港を最短で結び国際競争力の強化、周辺道路の渋滞緩和による物流の効率化、商工業の振興など地域の活性化に寄与する「北千葉道路」の整備促進を図ることを目的に、千葉県、北千葉道路沿線7市(市川市、松戸市、鎌ヶ谷市、白井市、船橋市、印西市、成田市)の首長及び、沿線7市の商工団体の代表が構成員となり、令和2年10月に設立しました。

## 北千葉道路の位置と状況

一般国道464号北千葉道路は、常磐自動車道と東関東自動車道のほぼ中間に位置し、市川市と成田市を結ぶ全長およそ43kmの高規格道路です。

北千葉道路周辺地域は、高速道路のインターチェンジへのアクセス時間が30分以上かかる空白地域が広がっています。



## 北千葉道路の概要と効果

### ◆概要

北千葉道路は、東葛飾、北総地域の東西方向の骨格となる道路であり、東京外かく環状道路と成田国際空港を最短で結び、国際競争力の強化を図るとともに、周辺道路の渋滞緩和による物流等の効率化や商工業の振興など地域の活性化に寄与し、災害時における緊急輸送ネットワークの強化に資する千葉県のみならず、我が国にとって大変重要な道路です。

現在、北千葉道路全長約43kmのうち、印西市から成田市間の13.5kmについては、国と県が協同して整備を実施しており、これまでに印西市若萩から成田市押畑間の9.8kmが暫定2車線で開通し、残る成田市押畑から大山間の3.7kmについては、県が整備を進めています。

また、未整備の市川市から鎌ヶ谷市間の約9kmを含む市川市から船橋市間の約15kmについては、令和2年度末に千葉県により都市計画の変更及び環境アセスメント手続きが完了し、令和3年度から市川市と松戸市の一般部3.5km及び専用部1.9kmの区間が、国の直轄権代行により事業着手されました。

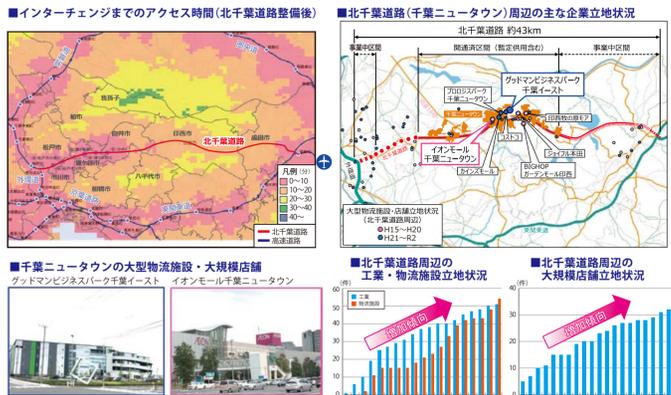
### ◆効果

- (1) 成田国際空港等の拠点への広域高速移動の強化～地域の都市機能の強化～
- (2) 周辺道路の渋滞の緩和
- (3) 災害時の緊急輸送ネットワークの強化

## 北千葉道路の主な効果

### (1) 成田国際空港等の拠点への広域高速移動の強化～地域の都市機能の強化～

- ◆北千葉道路周辺は物流施設、商業施設が多数立地しており、北千葉道路の整備により生産性の向上が期待されます。
- ◆高速道路のインターチェンジへのアクセス時間が30分以上かかる空白地域が、北千葉道路の整備により減少します。

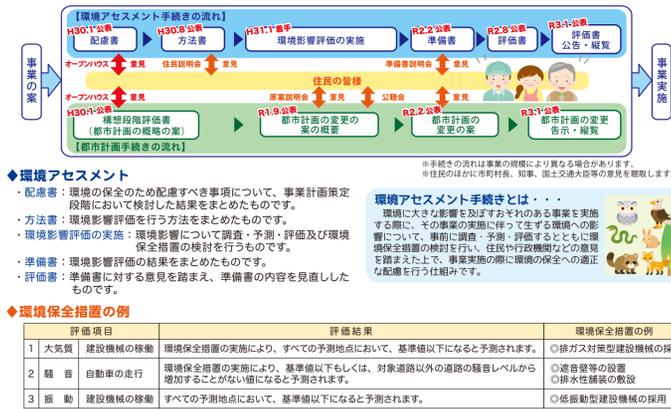


◆外環道(千葉県区間)整備後、北千葉道路は都心から成田国際空港へのアクセスルートとして最短となり、成田国際空港への時間短縮効果や、湾岸部の渋滞緩和も期待されます。



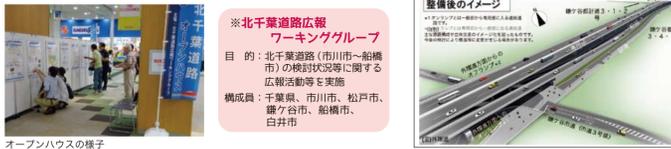
## 環境アセスメント・都市計画手続き

一般国道464号北千葉道路の市川市から鎌ヶ谷市間の未事業化区間約9kmを含む市川市から船橋市間の約15kmについて、事業化に向けた環境アセスメントと都市計画変更手続きを平成30年1月から着手し、令和3年1月に都市計画変更、同年2月に環境アセスメントの手続きが完了しました。



## 広報活動

北千葉道路の検討状況について、沿線住民の方々に広く周知し、ご理解いただくため、平成29年度から、県・沿線市により「北千葉道路広報ワーキンググループ※」を立ち上げ、広報紙の作成・配布やパネルなどを展示し、担当スタッフがパネルの説明や住民の方のご質問にお答えする「オープンハウス」を開催しています。



## 北千葉道路の主な効果

### (2) 周辺道路の渋滞の緩和

◆市川市から鎌ヶ谷市間は東西方向の幹線道路が脆弱なため国道464号や並行する県道等では慢性的に渋滞が発生しています。新しい幹線道路となる北千葉道路が整備されることで、交通が分散され、渋滞の緩和が期待されます。



## 北千葉道路の経緯と現況

昭和44年	・市川市～印旛村間(約32km)が都市計画決定
昭和50年	・「成田空港周辺都市計画調査」により成田国際空港への延伸構想が浮上
昭和60年	・「首都改造計画」により東京都心～千葉ニュータウン～成田国際空港を結ぶ構想となる
昭和63年	・「千葉県広域幹線道路網計画」により印旛村から東の区間は成田国際空港方面へ延伸する構想となる
平成3年	・平成3年2月7日 北千葉道路建設促進期同盟設立(沿線7市及び各市議会議員により組織)
平成5年	・区間の一部(松戸市～成田市間47km)が国道に昇格(国道464号)
平成6年	・地域高規格道路の候補路線に指定
平成13年	・「首都圏北部と成田空港間のアクセスを大幅に短縮する新たな道路アクセスルートとして、東京外かく環状線の東側区間の早期整備と北千葉道路の計画の早期具体化が都市再生プロジェクト(第2次決定)に位置付け
平成17年	・一般国道464号北千葉道路(印旛～成田)の環境影響評価手続きの終了 ・一般国道464号北千葉道路(印旛～成田)が都市計画決定
平成19年	・一般国道464号北千葉道路(印旛～成田)のうち、成田市押畑間～成田市大山間の新規事業化
平成20年	・都市計画変更(印旛村若萩～成田市押畑間)
平成22年	・平成22年7月17日 千葉ニュータウン内環状部の3.5kmが開通(印西牧の原駅付近～印西市鎌刈)
平成24年	・平成24年5月25日 千葉ニュータウン内環状部6.5kmが開通(白井市谷田～印西牧の原駅付近)
平成25年	・平成25年5月31日 成田市北須賀～船形間の1.8kmが開通(暫定2車線)
平成26年	・平成26年7月15日 千葉ニュータウン内環状部の3.5kmが開通(印西牧の原駅付近～印西市鎌刈)
平成27年	・国土交通省から平成27年度予算において、市川～鎌ヶ谷間の直轄調査の実施が公表
平成29年	・平成29年2月19日 印西市若萩～成田市北須賀間の4.2kmが開通(暫定2車線)
平成31年(令和元)	・平成31年3月3日 成田市船形～押畑間の3.8kmが開通(暫定2車線)
令和2年	・令和2年10月16日 一般国道464号北千葉道路建設促進期同盟会設立(千葉県、沿線7市及び各商工団体により組織)
令和3年	・一般国道464号北千葉道路(市川～船橋)の都市計画変更及び環境影響評価手続きの終了 ・地域高規格道路の計画路線に指定(市川市～成田市) ・地域高規格道路の整備区間の指定(市川市堀之内～松戸市高塚新田)(白井市谷田～印西市若萩) ・一般国道464号北千葉道路(市川・松戸)の専用部1.9km、一般部3.5kmが国により新規事業化
令和5年	・令和5年11月29日 北千葉道路用地取得促進プロジェクトチーム設置
令和6年	・市川・松戸地区の用地買収に着手(予定)



## 市川・船橋区間の取組や検討状況

### (1) 北千葉道路の事業化に向けた検討

地域の課題をより早く、効率的に解決していくために、国・県・沿線市等で検討・調整する場を設け、北千葉道路の構造や整備手法について、検討を進めています。

**第7回連絡調整会議(平成29年6月2日)、平成29年度第1回千葉県道路協議会(平成29年6月2日)での検討状況**

■整備手法について

- 北千葉道路(市川市～国道16号間)の自動車専用道路については、直轄事業と有料事業の合併施行の計画とする。
- 今後、構造や連絡位置等を詳細に検討する上で、外環道との連続性を確保し、東日本高速道路株式会社と協力する。

■都市計画変更等の手続きについて

- 北千葉道路(市川市～国道16号間)の都市計画変更及び環境アセスメント手続きに千葉県が着手できるように計画の具体化に向けて国が協力する。

**第8回連絡調整会議(平成30年11月5日)での主な検討状況**

外環(市川市)から国道16号(船橋市)間について、計画の考え方(専用部・一般部の基本構造、横断構成、連絡位置・構造等)を検討し、引き続き、国、県及び沿線市が調整を図りつつ速やかに概略計画を策定することを確認。

■外環から鎌ヶ谷市間の約9kmについて(整備イメージ①)

- 専用部(自動車専用道路)は、高架構造を基本とする。
- 但し、外環から県道松戸原木線までの間(約2km)と北総線交差点の松戸市松飛台地区(約2km)は地下構造を基本とする。
- 一般部(一般国道)は、走行性や安全性の確保などのため、地表式を基本とする。
- 地域の幹線交通を担う路線は交差点により一般部に接続し、生活道路は副道として一般部に接続する。
- 横断構成は、中央に専用部、両側に一般部を配置し、一般部の外側に樹帯、副道、自転車道、歩道等を設置することを基本とする。

■鎌ヶ谷市から国道16号間の約6kmについて(整備イメージ②)

- 専用部(自動車専用道路)は、整備済みの一般部の掘削構造(北総線の副道)に設置する。
- 一般部(一般国道)は、鎌ヶ谷消防署交差点において、整備済みの一般国道464号に接続する。

■連絡位置・構造について

- 接続する外環がハーフ構造であること等を踏まえつつ、最適な道路ネットワークの形成や構造基準、安全性、周辺土地利用状況や料金収入と償還計画等を総合的に勘案して計画する。

**第9回連絡調整会議(令和元年5月23日)、令和元年度第1回千葉県道路協議会(令和元年5月23日)での検討状況**

■概略計画について

- 北千葉道路(外環～国道16号)の専用部・一般部の概略計画(専用部・一般部の構造、横断構成、連絡位置・構造等)について合意。
- 都市計画変更手続きについて
  - 概略計画に基づき、都市計画変更に向けた具体的な手続きに、今後千葉県が着手。
  - 今後の検討課題等
    - 都市計画道路3・3・9・3・1・2等の北千葉道路と交差する都市計画道路については、千葉県、沿線市において、北千葉道路に合わせた整備を検討。
- 国道464号の直轄編入について(千葉県より要請)
  - 国道464号全線について直轄編入を行う旨の要請。
  - まずは、早期に整備が必要な市川～国道16号間の直轄編入を行う旨の要請。

